

5年2組

 メダカの学校
 ～5年2組のメダカたち～


今年の総合が本当にワクワクで楽しみ 4月

Aさんが日記に書いた一文です。

2組では、「メダカの泳ぐ大池」を目指して動き始めました。まずは、長野小の近くでメダカが捕れるというAさんの話から2週にわたって3時間、校外へメダカ捕りに出かけました。学校近くの道を歩いていると、そのすぐ脇を流れる用水路に魚の群れを見つけた子どもたち。遠足へ行くような表情だった子どもたちの顔つきは、みるみるうちにハンターの顔になっていきました。用水路の淵から網ですくう面白さ。メダカが捕れても捕れなくてもひとすくい毎に魚が捕れていないかドキドキします。大はしゃぎでメダカ捕りを終えました。

クラスみんなで、メダカにドジョウ、フナ、ザリガニ、タニシと様々な生き物が捕れました。さっそく、教室で飼い始めました。


Bさんの日記から

魚たちのお世話をしました。フナを小さな水そうで飼っていました。でも、小さな水そうで空気が入ってこないの、酸欠になってしまいました。だから、大きな水そうにうつそうとしました。でも、水が足りません。(中略) 温度と空気では、空気の方が大切だから、冷たい水を水そうに入れました。すると、元気になりました。魚のお世話はちょっとした判断が魚の命に関わることが分かりました。

Cさんの日記から

今日は総合でめだかとりをしました。最初の方はみつけるだけで、捕まえられませんでした。(中略)さいごのさいごで3～4匹メダカを捕まえられました。だから、大池をキレイにして、そこに入れたいです。

メダカを捕まえることで、大池への思いを強くしていく子どもたち。「メダカを自分たちで繁殖させて、大池で泳がせたい」という思いを抱く子どももいます。

この教室は、産婦人科だね 5月～6月

4月に近くの用水路で捕獲したメダカたちが、5月に卵を産み始めました。毎朝、登校するとすぐにメダカの所へ行ってジッと様子を観察する子どもたち。餌を食べる様子だけではなく、水などのメダカの住みやすい環境にも目を向けています。



メダカのこと詳しいAさん。自宅でもメダカを飼っていると話をしてくれていました。そんなAさんが、次々と卵を産むメダカたちを見て、「ねえ、先生。この教室は、産婦人科だね。新しい命が生まれているよ。」と話しかけてくれました。私はハッとさせられました。「メダカが卵を産んでいるな、これからどんな風に孵化していくのだろうか？」としか見ていなかった私。教室が産婦人科という見方を全くしていませんでした。

Aさんのこの言葉には、新しい命を見つめているだけではなく、自分事・クラスみんなの事としてメダカを見つめているということが含まれているように感じます。少しずつ卵からかえっているメダカの赤ちゃんたち。子どもたちと見つめる日々が続きます。

この教室はメダカの学校だね 6月～7月

4月に「ぼくのメダカ」「わたしのメダカ」として見つめてきたメダカとの生活。子どもたちと話を重ね、「ぼくのメダカ」「わたしのメダカ」を「みんなのメダカ」にしていくことに決めました。そこで、まずはどんな水槽がいいのか、どのくらいの大きさだったらみんなで見つめていけるのかを考えていきました。個人や班で考えて、最後はクラスみんなで「この水槽だ」と決めていきました。水槽が届く予定日の当日、どことなくワクワクしている雰囲気の子もたち。私も楽しみにしていました。そして、水槽が届くとみんなで玄関まで取りに行き、重たい水槽を3階まで担ぎ上げました。教室ですぐに2L ペットボトルの水を入れてみましたが、底一面にすら広がらないほどの大きさの水槽です。4L 入れたところでようやく底に水が広がりました。その後10L 入れたところで定規を取り出してきて水深を測り出すAさん。「1mmしかない」という言葉に周りの子たちが反応します。「10Lで1mmってことはどんだけ入るの!?!」「200Lとか300Lとか入れてもいっぱいにならないじゃん」「すごっ」「もっともっとメダカのための水を用意しなくちゃね」「置き場所はどうする?」「まずは水槽を洗わなくちゃ」。次々とメダカのためにやることを考えていきます。その後も、大量の水を入れたり、砂利を入れたりしてメダカを水槽に入れる準備を進めていきました。

いよいよメダカを水槽に入れる時がきました。はじめは2匹入れて泳ぐ様子を見ていました。大きな水槽をどんな様子で泳ぐのか、自分たちが用意した水で生きていけるのかと心配そうに見つめていました。その後メダカを水槽に次々と入れていきました。それまで「ぼくのメダカ」「わたしのメダカ」として違う水槽で生活していたメダカたち。「どうなるのかな?」「けんかしないかな?」とつぶやいていたCさんとDさん。その横にいたEさんが「ねえ、見て見て! 群れになっているよ」と指さしました。「みんなといると安心するんだね。ずっと一緒に泳いでる」とCさんが言いました。Dさんが「この教室はメダカの学校だね」と嬉しそうな表情で言うと、CさんとEさんが笑顔で「そうだね」と応えます。

今、教室には大きな水槽の中で生活するメダカたちと、そのメダカが産んだ卵からかえったたくさんの稚魚がいます。これからこのメダカたちと共にどんな学びがあるのか、どんなことや人となつがっていくのか楽しみです。

